

# 令和6年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第3号 (6月予報)

○向こう1か月の天候の見通し (令和6年5月30日発表：沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	平年並が多い	平年並か少ない

○6月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			5月の発生量 (平年比)	5月からの 増減	6月の発生量 (平年比)	
カンショ	①	イモキバガ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	②	ナカジロシタバ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
さとらきび	①	メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ) (株出し)	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	②	バッタ類	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
(温州みかん)	①	そうか病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
(タカンカ)	①	かいよう病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	②	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
マンガ	①	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
カンショ	トリバ類	平年より被害葉率が高く多くのほ場で発生が見られた。発生初期の防除が有効であるので被害葉が出はじめたら、捕殺等で早期防除に努める。また、収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるためほ場外へ持ち出す。
さとうきび	黒穂病	沖縄本島南部の一部ほ場で発生が確認され発病程度は平年並みであった。胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。多発ほ場や放棄ほ場は早急に更新する。
（温州みかん）	カイガラムシ類	一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。果実に発生すると、排泄された甘露にすす病が発生したり、定着した部分が着色不良、肥大阻害を引き起こすことで、外観が損なわれるため商品価値を低下させる。低密度に抑えるため、早期発見・防除に努める。
（タカンカ）	カイガラムシ類	一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。果実に発生すると、排泄された甘露にすす病が発生したり、定着した部分が着色不良、肥大阻害を引き起こすことで、外観が損なわれるため商品価値を低下させる。低密度に抑えるため、早期発見・防除に努める。
	ゴマダラカミキリムシ	大宜味村では一部園地で、今帰仁村では全体的にゴマダラカミキリムシの発生が多く見られた（防除員報告）。見つけ次第、成虫の捕殺・幼虫の刺殺を行う。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。甘露を排泄するカイガラムシ類は樹上のアリ類を探すことで発見
オクラ	カタツムリ類	樹上に移動し、葉を食害する。樹上に移動すると防除が困難になるため、定植前や作物にかからないようにほ場周辺に登録農薬を処理し、密度を低減する。樹上に移動した場合は捕殺に努める。
	ミナミアオカメムシ	成、幼虫がさく果や蕾を吸汁加害する。見た目では被害はほとんどわからないが、さく果を切断すると子実が変色したり、吸汁部が褐色に変色している。さく果の基部が加害されると内部がスポンジ状になる。イネ科雑草等で世代を経過し、幼虫は5齢を経て1カ月程度で成虫になる。ほ場周辺のイネ科雑草の除去、登録農薬を散布し防除に努める。

# 令和6年度 宮古群島 病害虫発生予報 第3号（6月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和6年5月30日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	平年並が多い	平年並か少ない

○6月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの 増減	6月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（株出し）	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
マンゴー	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
オクラ	① アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	やや多	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③ チョウ目幼虫	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	平年より発病株数が多く発生ほ場率も高い。多良間村も多発生状態が継続しており防除の徹底が必要である。胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。多発ほ場や放棄ほ場では早急に更新する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。

## 令和6年度 八重山群島 病害虫発生予報 第3号（6月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和6年5月30日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	平年並が多い	平年並か少ない

○6月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 （平年比）	5月からの 増減	6月の発生量 （平年比）	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（株出し）	並	↓	やや少	平年の発生量の推移（↓）
マンゴー	① ハダニ類	多	↑	やや多	平年の発生量の推移（↑）
オクラ	① うどんこ病	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↓	やや少	平年の発生量の推移（↓）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	一部発生が多いほ場もあったが石垣島全体では発生程度は並みだった。発生ほ場率は平年より高かった。胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。多発ほ場や放棄ほ場は早急に更新する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	甘露を排泄するカイガラムシ類は樹上のアリ類を探することで発見しやすくなる。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。

向こう1か月の天候の見通し  
沖縄地方（06/01～06/30）

## 予報のポイント

- 向こう1か月の気温はほぼ平年並ですが、期間のはじめは冷涼な空気に覆われやすいため、かなり低くなる可能性があります。
- 前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

5月21日発表の3か月予報での6月の予報に比べ、期間のはじめは冷涼な空気に覆われやすい見通しに変わったため、高温の可能性が小さくなりました。

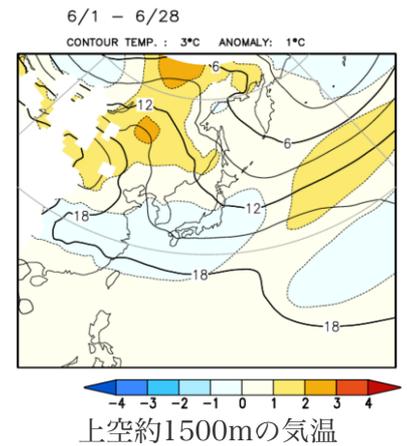
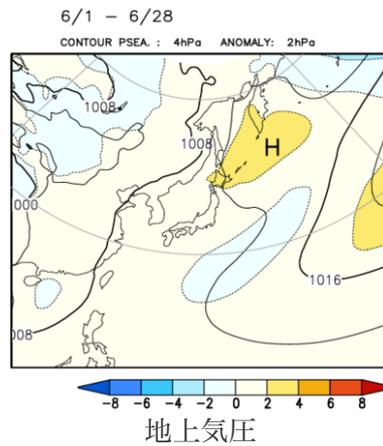
## 1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	低30 並40 高30% ほぼ平年並の見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み
数値は予想される出現確率（%）です			

## 数値予報モデルによる予測結果

1か月平均の地上気圧（左図）は、日本の北に平年より高い所がありますが沖縄付近では相対的に低く、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込みです。

上空約1500mの気温（右図）は、東日本から華中にかけて広い範囲で平年より低いと予測され、沖縄付近では期間の前半を中心に冷涼な空気に覆われやすいでしょう。



季節予報では、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用します（アンサンブル予報）。

多数の結果の平均（上図など）から大気の状態を判断し、また結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します。

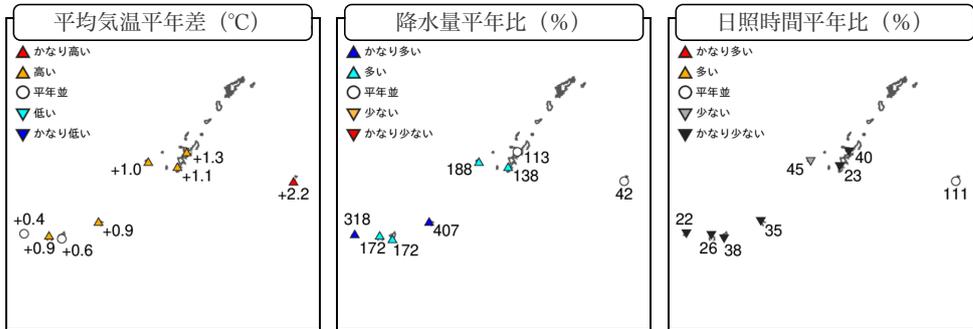
週別の平均気温と天候

	平均気温（1週目） 06/01～06/07	平均気温（2週目） 06/08～06/14	平均気温（3～4週目） 06/15～06/28
週別の天候	前線や湿った空気の影響を受けやすいため雲が広がりやすく、期間の前半に雨の降る日があるでしょう。	前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄地方	低70 並20 高10% <b>低い見込み</b>	低30 並50 高20% <b>平年並の見込み</b>	低20 並30 高50% <b>高い見込み</b>
数値は予想される出現確率 (%) です	<p>平均気温（1週目）</p> <p>低い確率 (%) 50 40 平年並も40 50 高い確率 (%)</p>	<p>平均気温（2週目）</p> <p>低い確率 (%) 50 40 平年並も40 50 高い確率 (%)</p>	<p>平均気温（3～4週目）</p> <p>低い確率 (%) 50 40 平年並も40 50 高い確率 (%)</p>

明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報 (<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>) を参照してください。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、参考資料 (<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/okinawa1.html>) をご覧ください。文章による解説については、確率の大きさに応じた言葉で表現しています。詳しくは本資料末尾の「[参考（確率予報の解説）](#)」をご覧ください。

最近1週間の天候経過



(実況) 05/23～05/29	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
沖縄地方	+0.9°C (高い)	215% (多い)	33% (かなり少ない)

参考

確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解説
高い（多い）確率が50%以上	高い（多い）見込み
(20：40：40)	平年並か高い（多い）見込み
平年並の確率が50%以上	平年並の見込み
(40：30：30) (30：40：30) (30：30：40)	ほぼ平年並の見込み
(40：40：20)	平年並か低い（少ない）見込み
低い（少ない）確率が50%以上	低い（少ない）見込み

気温・降水量・日照時間等の平年値につきましては、次のページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/okinawa1.html>



天気日数（晴れ日数及び降水日数）の平年値につきましては、次のページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/tenkinissuu/tenkinissuu.html>

